

平成31年2月5日 第2回香川県国民健康保険運営協議会 「参考資料5」より抜粋

70歳以上の被保険者の増加による影響

団塊の世代(1947年～49年生まれ)が平成29年度から70歳以上に移行しているため、平成31年度の納付金算定においては、70歳以上の被保険者数が平成30年度と比べ、7,850人増加し、診療費は約42億69百万円余増加する見込みとなっている。

今後、団塊の世代が後期高齢者になるまでの間は診療費が高く推移することが考えられ、今後数年間は、厳しい財政運営が続くことが想定される。

そこで、70歳以上の被保険者数の動向と、70歳以上の被保険者数の増加に伴う診療費の増加傾向を見るために、昨年9月末における全市町の65歳から74歳の被保険者数を調査した。

下図は、調査結果をもとに、各年齢の集団が1年ごとに、1歳年齢が上がることを示したイメージであり、平成33年度(2021年度)に70歳以上の被保険者数がピークを迎えることを示している。

調査結果

年齢	H30(2018)	H31(2019)	H32(2020)	H33(2021)	H34(2022)	H35(2023)
65歳	7,273					
66歳	8,364	7,273				
67歳	10,191	8,364	7,273			
68歳	11,248	10,191	8,364	7,273		
69歳	13,870	11,248	10,191	8,364	7,273	
70歳	14,103	13,870	11,248	10,191	8,364	7,273
71歳	14,037	14,103	13,870	11,248	10,191	8,364
72歳	7,698	14,037	14,103	13,870	11,248	10,191
73歳	8,421	7,698	14,037	14,103	13,870	11,248
74歳	10,192	8,421	7,698	14,037	14,103	13,870
70～74歳	54,451	58,129	60,956	63,449	57,776	50,946

団塊の世代(1947～1949年生まれ)